



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3308 号 2016.10.18 発行

社説：政府は継続的な賃上げの基盤づくりを 日本経済新聞 2016年10月17日

来年の春季労使交渉に向け、政府が経済界に賃上げを強く求めている。要請は安倍政権になって4年連続だ。デフレ脱却には消費拡大のカギを握る賃上げが不可欠との判断からだが、民間の賃金決定に政府が介入することには違和感を拭えない。

賃金を上げるために政府が果たすべき役割は、企業の生産性向上の支援や経営者の先行きへの不安を取り除くことである。そのための規制改革や社会保障改革に政府は注力してもらいたい。

8月は消費支出が物価変動の影響を除いた実質で前年同月比4.6%減と、6カ月連続の減少となった。実質賃金の伸び率が鈍っていることが響いている。

一方で企業が抱える資金は潤沢だ。日銀によると、民間企業が保有する現金・預金は6月末で242兆円と過去最高になった。

経済財政諮問会議などの場で政府は、経済界に積極的な賃上げを求めている。企業は積み上げた資金をもっと賃金に振り向けてほしいとの考えがある。

しかし、賃金決定への政府の介入は、賃金は企業の生産性の向上とともに上がっていくという市場メカニズムをゆがめかねない。

民間の賃金の決め方に政府の意向が反映されるようになれば、この先、企業が政府から、賃金の引き下げを迫られる心配もある。

政府に求められるのは企業が継続的に賃金を上げていくための基盤づくりだ。海外企業に比べ見劣りする営業利益率の引き上げなど企業自身の奮起が必要なのはもちろんだが、企業が活動しやすい環境整備は政府の仕事である。

成長分野への参入など事業活動を阻んでいる規制の見直しを大胆に進めるべきだ。働く人の生産性を高める労働時間規制の見直しやほかの仕事に移りやすい柔軟な労働市場の整備など、雇用分野の制度改革も重要度を増している。

企業に収益力向上を促すには、長期の視点に立った投資家の声を生かす企業統治改革も推進する必要がある。社外取締役の起用は広がってきたが、トップ選びの過程の透明性を高めるなど取締役会改革の余地は大きい。

賃金や消費が伸び悩む理由のひとつには、企業や働き手が払う社会保険料がずるずると上がり、負担が増していることがある。政府は年金、医療、介護という社会保障と財政を一体的にとらえた構造改革に力を入れてほしい。

社説：防災・減災 避難情報見直し／犠牲が出てからでは遅い

河北新報 2016年10月17日

台風10号豪雨の甚大な犠牲と被害を受け、政府は焦点になった避難準備情報の名称変更をはじめ、避難に関する情報提供の改善策を年内をめどに検討することになった。

必要な見直しに素早く取り組むのは当然だが、今回の豪雨の前から課題は少なからず指摘されていただけに、後手に回った感は否めない。

噴火や地震も含めて、このところ大きな災害が起きるたびに、それまでの警戒情報や避難情報の問題点を修正する対応が繰り返されている。

「想定外」の大災害が相次いでいるためでもあるが、犠牲回避に向けた平時からの議論は十分だったかどうか。犠牲が出てからでは遅すぎる。災害多発国の構えが問われるケースだと受け止めたい。

避難準備情報は、自治体が発令する避難情報の第1段階であり、避難に時間がかかる高齢者や体が不自由な人などに避難を始めるよう求め、それ以外の人たちには避難準備を整えるよう促すものだ。

名称から前段の趣旨を読み取るのは難しく、台風10号豪雨で9人が犠牲になった岩手県岩泉町の高齢者グループホームでも、緊急性のある情報とは受け止められなかった。

避難準備情報に続く避難勧告、避難指示にしても、自治体が住民の命を守るために発令する重い呼び掛けでありながら、名称が切迫感に欠け、運用にばらつきや混乱があるとの指摘は前からあった。

いつも問題になる発令の遅れと併せ、誤解や混乱を解消できないままに運用が続けられ、災害犠牲が繰り返される背景になった事実は重い。

名称変更といった一部の手直しにとどめず、発令の意味や重みを自治体と住民が共有しやすくするために必要な改善策を、この機会に抜本的に議論し直すことが必要だ。

他の災害の警戒情報でいうと、噴火の警戒レベル1は2年前の御嶽山噴火を受け、「平常」から「活火山であることに注意」に変更された。

地震では、大地震の後により大きな地震が襲って犠牲が拡大した4月の熊本地震の反省から、「余震」という言葉を使わない警戒呼び掛けが導入されることになった。

大きな災害が起きてみれば当然で必要な見直しと言えるが、起きなければ手つかずのままだったことになる。

災害犠牲を未然に防ぐために、避難や警戒の情報提供をどう改善するか。災害対策で最も重要な課題について、事後ではなく普段から、継続的に見直しを進める仕組みや努力が求められている。

住民の側に立てば、政府や自治体、気象庁などによる情報提供を対応の基本にしながらも、さまざまな課題があることを前提に、避難や警戒を進める意識も必要になる。

異常気象や災害多発の傾向を踏まえ、早め早めの自発的な判断と行動が自分と隣人の命を救う最善の道であることをもう一度肝に銘じたい。

ようやく政治が動いた形なので喜ぶべき話ではある 西日本新聞 2016年10月17日

ようやく政治が動いた形なので喜ぶべき話ではある。

医療が進歩し、長男の力(11)のような、たん吸引や管を使った栄養注入など医療的ケアが必要な子どもが増える中、改正障害者総合支援法により、こうした在宅の子どもへの支援が自治体の努力義務として盛り込まれた。一時預かりなど障害児も家族も地域で暮らし続けられるサービスの拡充を願ってやまない。

だが、もやもやするのは国側が使い始めた「医療的ケア児」の呼称。分かりやすい半面、新たなレッテルでもある。公的支援の対象を明確化するのは当然だが、レッテルは特別視につながる。

7月の相模原殺傷事件で被害に遭った人の親たちは実名公開を拒んだ。障害があっても認め合う社会が程遠い現実の裏返しだ。誰をも特別視しない世の中に向け、今こそ知恵の絞りどころでは？ 私は、安易に「医療的ケア児」なんて書いた記事を掲載するつもりはない。(三宅大介)

「人ごとではない」相次ぐ視覚障害者のホームからの転落事故 大阪の視覚障害者らから

対策訴える声

産経新聞 2016年10月17日

?日午前?時?分ごろ、大阪府柏原市国分本町の近鉄大阪線河内国分駅で16日、通過中の特急電車がホームから線路に転落した兵庫県宝塚市の男性がはねられ死亡したが、視覚障害者が駅のホームから転落する事故は各地で後を絶たない。今年8月には東京メトロ銀座線で、盲導犬を連れた男性会社員(55)が転落し、列車にひかれて死亡。事故防止対策の強化を求める声が高まっているが、決め手とされる「ホームドア」の設置は、費用面などの課題があり、進んでいないのが現状だ。視覚障害者らは、電車を利用する際は常に転落の危険を意識しているといい「人ごとではない」と漏らした。

ホームドアの設置を

「また起きたんですね」。全盲のマッサージ師の男性(53)＝大阪市城東区＝は、近鉄大阪線河内国分駅の事故を知って、表情を曇らせた。

自身もこれまで何度も、ホームから転落したことがある。ホームの端を示す点字ブロックを、階段の始まりを示す点字ブロックと誤解して、踏み込んでしまったことなどが原因という。幸い大けがには至らなかったものの、「車を運転するわけにもいかないし、移動手段は電車が頼り。ホームドアがあれば落ちようもなく安心できる。設置が広がってほしい」と願う。

全盲でなくても転落の危険はある。中途視覚障害者らを支援するボランティア団体「きんきビジョンサポート」の代表で、自身も視覚障害者である竹田幸代さんは「ぼんやりと見えているからこそ、ホームの端を見誤って転落してしまう人も少なくない」と指摘。隣のホームの電車を、自分のホームに電車が到着したと勘違いして足を踏み出し、転落するケースもあるという。

白杖を持った人を見たら声を

国土交通省によると、視覚障害者のホームからの転落事故(列車と接触した場合を除く)は平成21年度の38件から増加傾向で、26年度は80件。接触事故も毎年1～4件発生している。

一方で、事故防止の決め手とされるホームドアの設置は、1日に10万人以上が利用する全国251駅中でも、約3割にとどまる。今回事故のあった近鉄でも、約280駅全てのホームに点字ブロックは設置されているが、ホームドアはない。

1駅あたり数億～十数億円とされるコストや、相互乗り入れする他社の車両とドアの位置が違うことなどが設置の壁になっている。

竹田さんは、「ハード面の整備には時間がかかるかもしれない。人の支え合いで事故防止を進めることができたなら」と話す。「白杖(はくじょう)を持った人がいれば、『一緒に乗りましょうか』『改札まで一緒に行きましょうか』と声をかけてもらえたら」と呼び掛けている。



仕方を確かめ合った。

障害者施設で災害救助訓練

読売新聞 2016年10月17日

地域の人たちが参加した災害救助訓練

厚木市上荻野の障害者施設「紅梅学園」で16日、災害救助訓練が行われた。秋の火災予防運動の一環で、消防隊員や施設職員、地元住人ら約120人が参加した。

今年は避難に時間を要し、連携プレーが不可欠なケースを想定。車いすの避難誘導や被害状況の連絡や救助の

森田律子施設長（59）は「施設の人手が少なく、今回の訓練を機に、地域との協力態勢を整えたい」と話していた。

相模原殺傷 津久井やまゆり園で19人の「お別れ会」 産経新聞 2016年10月17日

入居者19人が刺殺された相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で16日、犠牲者を追悼する「お別れ会」が開かれ、入居者や家族らが同園を訪れた。

お別れ会は午後2時から約1時間半、同園体育館で行われた。複数の関係者によると、館内は出席者で埋まり、ステージ上には17人の遺影が掲げられ、花を手向けるなど犠牲者を哀悼したという。終了後には負傷した入居者の家族らに対し、県と施設を運営する「かながわ共同会」から見舞金の手渡された。お別れ会に出席した60代の入居者の母親は、「いまだに信じられない気持ち。早く再生してほしい」と話した。

家族会の大月和真会長はお別れの言葉を公表。「心よりご冥福をお祈りいたします。そして、私たちはあなたたちのことを決して忘れません」とした上で「園の再生については、津久井やまゆり園が今後50年、100年と続いていく施設であることを念頭に、皆さま方と心を合わせて取り組んで参りたい」と述べた。

幸せ運ぶ福祉理容室 高齢者ら受け入れ

河北新報 2016年10月17日

利用者とは和やかに話しながら手を動かす村田さん（右）



高齢者や知的障害者といった特別な配慮が必要な人を受け入れる理容店が、秋田市將軍野にある。今年1月に開店した「福祉理容店 幸のとり」だ。1人で接客する店長の村田薫さん（47）は「言葉が通じない利用者でも、カットや顔そりをしてきれいになると、笑顔になる。その瞬間が私にとって幸せ」と話す。

閑静な住宅街に立つ理容店に、理髪用の椅子は1台のみ。木目調の壁に小鳥をモチーフにした雑貨を飾り、居心地の良さを演出した。店名は鳥好きだったことに加え、「店にいる少しの間も幸せな時間にしたい」（村田さん）との願いを込めて付けた。

村田さんが福祉理容に興味を持ったのは、歯科衛生士として市内の歯科医院で働いていた1993年ごろ。往診先の介護施設で、理容師が利用者の顔そりをしている風景が目にとまった。「これができれば、家族の老後も自分で世話ができる」と、96年に理容師の免許を取得。市内の病院にある理容室で約10年経験を積んだ。

独立を決めたのは、病院で働く中で「もっと利用者のニーズに応えたい」と思ったからだ。車椅子のまま洗髪できるように椅子のないシャンプー台を設けたほか、介助者に休んでもらえるスペースを用意するなど、病院で得たアイデアを生かした。福祉理容を専門に掲げる店は全国的にも珍しいという。店は口コミで人気を集め、月に20件ほどの予約が入る。

毎月1回訪れる同市の無職長谷川次郎さん（89）は足腰が悪いため、村田さんの送迎を利用して来店する。「以前はタクシーで一般の理容室に行っていたが、料金がなくて困っていた。ここは送迎してもらえるので気兼ねなく利用できるし、村田さんとの会話も楽しみ」と笑う。

利用者は、認知症で十分なコミュニケーションが取れない高齢者や寝たきりの患者らさまざま。村田さんは「利用者一人一人と丁寧に向き合っていきたい」と話す。

午前9時～午後6時。不定休で完全予約制。自宅や病院に出向く訪問理容も行っている。カット3000円など。連絡先は同店018（807）0184。

＜この人このまち＞障害者に飲食店マップ

河北新報 2016年10月17日



北上市の小原広記さん（55）は、NPO法人アクセシブル北上の理事長として、障害者への対応状況を載せた「きたかみ飲食店UD（ユニバーサルデザイン）マップ」の作製に当たった。同市など岩手県内で22～24日に開かれる全国障害者スポーツ大会を機に、北上を「障害者に優しい街」にしようと活動に力を入れる。

（北上支局・布施谷吉一）

◎NPO法人アクセシブル北上理事長 小原広記さん（55）

—マップは9月に完成しました。特徴は。

「市の委託を受け、A2判の地図を3500部作りました。市内の飲食店34店の電話番号や住所といった基本事項に加え、エレベーターや段差の有無、トイレ様式のマークを付けました。身体、知的、精神の障害別に店が対応可能かどうかとも表記。身体は車いす利用者と視

覚、聴覚などの障害がある人に分けました」

「折り畳むとポケットに入ります。何回も開いたり閉じたりしても折り目が変わらない折り方を採用しました。11日まで開かれないわて国体の会場などで配布。健常者からの反応は良好でした。電子版も障害者大会をめぐりに開設します。障害の有無に関係なく、使える情報にしたいですね」

—地図作製のきっかけは。

「NPO法人の障害者の会員から『飲食店を選ぶ際に参考になる地図が欲しい』という話が出ました。北上は国体や障害者大会の総合開閉会式の会場となり、全国から大勢の障害者が訪れます。社会参加を後押しする目的からも、地元の食を楽しんでもらう環境づくりが必要と考えました」

—苦労した点は。

「どう対応すればいいかを飲食店に知ってもらうため、ソフト面の支援が必要でした。昨年11月から計4回、飲食店関係者を対象に講座を開きました。最初は『対応は無理』と考える人が多かったのですが、障害者に同伴者がいることを説明し、まずは受け入れる気持ちが重要と訴えました」

「店の意識は少しずつ変わりましたが、地図に掲載した店が一部にとどまったのも事実。今後も理解を広げる活動に努め、掲載店を増やしたいと思います」

—取り組んだ意義は。

「掲載店に障害者の対応が難しくないと分かってもらえました。誰もが住みやすく、遊びに来やすい街として魅力を全国に示すチャンス。今回の取り組みは地域の財産になるはず。一方で国体と障害者大会は、一つのきっかけに過ぎません。地元で普段から使える情報として、いかに浸透させるかが課題。来年度以降に生かしていきます」（月曜日掲載）

〔おばら・ひろき〕 1960年北上市生まれ。東北学院大卒。NPO法人アクセシブル北上の事務局長を経て、2015年から理事長。安全タクシー（北上市）社長。

JR小浜駅の売店再開 「へしこ」など商品500種類並ぶ

中日新聞 2016年10月17日

ほぼ1年半ぶりに再開した売店＝JR小浜駅で

昨年三月から閉店していた小浜市のJR小浜駅の売店が十六日、営業を再開した。社会福祉法人つみきハウス（同市後瀬町）が、JR側から業務を請け負い「ステーションショップつみき」として店を開いた。

店頭に並んだのは新聞、飲み物、菓子、土産物として



販売するぬか漬けの「へしこ」や「若狭塗箸」など。店は広さ約二十五平方メートルで、法人側の利用者二人と指導員一人が接客する。営業時間は午前七時半から午後七時まで。

売店の閉店以降、乗降客から「さみしい」との声を受け、市がつみきハウスとJRを仲介して再開準備を進めてきた。

開店を祝う式典とアマチュアバンド演奏がこの日、駅構内であった。

法人の施設長風呂龍男さん（64）は「一日当たりの乗降客千人のうち、半分は通勤通学客と聞く。店に並べた商品は約五百種類。利用客のニーズに合った品ぞろえで応えていきたい」と話した。（池上浩幸）

液体ミルク「解禁」を政府検討 男性育児参加後押し 共同通信 2016年10月16日



海外で普及している液体ミルク 政府は、国内で法令が未整備のため流通していない乳児用液体ミルクの「解禁」に向けた検討を始めた。本年度中に方針をまとめる。成分は粉ミルクと同じだがお湯で溶かす必要がなく、育児の手間が省けるため男性の育児参加の後押しにもつながると期待する。封を切ればそのまま飲めるため災害で断水したり、お湯を沸かせなくなったりしても使える利点がある。

液体ミルクは子連れで外出する際の携帯にも便利で、海外では広く普及している。内閣府の男女共同参画会議はこのほど、諸外国と比べて家事や育児をする時間が短い男性の意識改革に向け、専門調査会を設置。液体ミルク解禁に関しても議論する。

認知症の仕組み、京大チームが一端を解明…予防薬につながる可能性

読売新聞 2016年10月17日

様々な細胞に変化できるiPS細胞（人工多能性幹細胞）と、遺伝子を自在に改変できる技術「ゲノム編集」を利用し、認知症の一種が発症する仕組みの一端を解明したと、京大iPS細胞研究所の井上治久教授（幹細胞医学）らのチームが発表した。

予防薬の開発につながる可能性がある。論文が、英電子版科学誌サイエンティフィック・リポートに掲載された。

この認知症は、「前頭側頭葉変性症」と呼ばれ、患者には「タウ」というたんぱく質の遺伝子に変異があると報告されているが、詳しいメカニズムは不明だった。

チームは、患者2人から作製したiPS細胞を、脳の神経細胞に変化させて病態を再現。そのうち一つの細胞について、ゲノム編集でタウの遺伝子変異を修復し、病気の細胞と比べたところ、修復した細胞では異常なタウの蓄積が減った。

異常なタウが蓄積すると、細胞内で神経活動に関わるカルシウム量を調節する機能が低下し、発症につながるとみられる。井上教授は「他の認知症でも共通の仕組みがあるかどうか調べたい」と話す。

【前頭側頭葉変性症】 脳の前頭葉や側頭葉が萎縮し、同じ行動を繰り返すなどの症状が出る。国内の推定患者数は約1万2000人。65歳以下の認知症では、記憶障害が起こるアルツハイマー病の次に多いとされる。

救急延命、本人の意思尊重 終末期高齢者、情報共有へ 共同通信 2016年10月15日

がんなどの重い病気で終末期の高齢者が心肺停止といった状態で救急搬送される際に、

本人の意思表示がないまま蘇生・延命措置を受けるケースが増えているため、厚生労働省は2017年度から、在宅医療に携わる医師や看護師、救急隊が連携し、患者の情報を共有する取り組みを支援する。先進的な自治体の取り組みを参考に研修会を開き、患者の意思を尊重した終末期医療を目指す。

消防の救急隊や搬送先の病院は応急処置をするのが原則だ。一方で、終末期の高齢者の中には、回復が見込めなければ延命を望まない人も多い。

幼児薬、米で10人死亡か ホメオパシーでFDA調査 共同通信 2016年10月15日

【ニューヨーク共同】「ホメオパシー」と呼ばれる代替医療で販売されている幼児向けの薬で、過去6年間に10人が死亡、約400人が健康被害を受けた可能性があるとして、米食品医薬品局（FDA）が14日までに調査に乗り出した。

調査対象となっているのは、ホメオパシー薬を手掛ける米ハイランド社が製造、販売する幼児用の製品。歯の生え始めの痛みを和らげるとしているが、FDAは死亡のほか昏睡状態、嘔吐などの報告があると指摘している。

FDAは9月30日、消費者に利用の中止と廃棄を勧告する声明を発表。これを受け、米薬局大手CVSヘルスは、全ての関連商品を店舗から撤去した。

「ぐうかわ」「ゆめかわ」…若者言葉に「かわいい」新語続々

若者らが使う「かわいい」の新語

	意味
ぐうかわ	ぐうの音も出ないほどに
ゆめかわ	夢のように(メルヘンチックな様子に対して)
ぎゃんかわ	衝撃を表す「ぎゃん」という擬音が
げろかわ	嘔吐するほどの衝撃を受ける
めっかわ	めっちゃくちゃかわいいの略

産経新聞 2016年10月17日

「ぐうかわ」「ゆめかわ」ー。若者が多用する形容詞「かわいい」を意味する新語が続々と生まれ、ソーシャル・ネットワークキング・サービス（SNS）上などで盛んにやり取りされている。若者言葉では「かわいい」が示す範囲が広がっているため、用途に合わせて意味を限定する言葉として使われているようだ。

「ぐうかわ」は「ぐうの音も出ないほどにかわいい」という意味。メルヘンチックで女の子らしい様子は「ゆめかわ（夢のようにかわいい）」。

衝撃を受けたような「ぎゃん」という擬音を付けた「ぎゃんかわ」、「吐くほどに」という程度を強調した「げろかわ」もよく使われる。

「かわいい」は、「黒い猫」「おいしいコメ」などと同様に名詞の前に付けてそのものの属性を表す形容詞の一つ。広辞苑によると、「小さくて美しい」ものなどを表現するために使われる。しかし近年は、若者を中心にグロテスクな深海生物など、これまで「かわいい」が使われていなかった対象にも用いられるケースが増えている。

流行語に詳しい名古屋大大学院の町田健教授（言語学）は『「かわいい」の対象が広がりすぎ、意味がぼんやりしてしまった。そのため、より意味を限定しようという動きが出ているのではないかと指摘する。

「ぐうかわ」など新語は暗号のようで、若い世代の仲間内だけに通じるのが特徴。使うことで仲間意識を高める効果もあるという。

ほかの世代へ広がった例もある。「とても」を「超（ちょー）」と言い換える表現などが好例だ。町田教授は「若者言葉の大部分は短期間で消えていくが、使い勝手の良さなどから残るものもある。若者言葉には言語を創造していく力が備わっている」としている。（玉崎栄次）

